



表す 感じる

かほく防災記者リポート



中学生、仙台防災未来フォーラムでブース出展

「学び伝える」使命新たに

東日本大震災の教訓や災害への備えを学び、発信するかほく防災記者研修を修了した中学生3人が14日、仙台市青葉区の仙台国際センターで開かれた仙台防災未来フォーラムに参加した。かほく防災記者ブースで、自ら監修した「マイ防災ミニブック」を作るワークショップを行ったほか、大学、企業、NPOなどの事例発表やパネル展示取材した。

参加したのは仙台に華中3年の大津美海さん(15)、仙台青陵中等教育学校3年の桜井みらいさん(15)、仙台市七北田中3年の高橋彩葵さん(15)。

ミニブックは、A4判に朝刊掲載「防災士記者 備えのコンパス」から選んだイラストで構成されている。来場者に作り方を教え、8ページのミニブックを完成させた。

仙台市の郡和子市長もブースを訪れた。高橋さんが「今後の防災に生かすため、震災を風化させないようにしたい」と述べると、郡市長は「教訓を子どもたちや外国人にも伝えてほしい」と期待した。



郡市長に、活動を報告するかほく防災記者



高橋彩葵さん

小中学生への防災・減災の
出前授業を通して、防
災意識の変化を検証した
東北大災害科学国際研究所

仲間がいれば意識高まる

「結プロジェクト」の取り組みに興味を持った。内陸部と沿岸部では防災意識に差があった。防災に取り組む仲間をつくったり、災害時の自分の役割を考えたりすることが、防災意識を高めることにつながっていた。



桜井みらいさん

仙台市民図書館の「3・11震災文庫」のブースを見学した。東京電力福島第1原発や被災者の心理学な

ど、さまざまな角度から震災を捉えた本もあった。資料本に小説を組み合わせた展示や、電子書籍の体験もあり、幅広い年齢層が震災に触れられると思っただ。風化を防ぎ、後世に伝えるにはこうした取り組みが大切なのだ実感した。

震災の本風化防ぐ助けに



大津美海さん

宮城教育大311ゼミナールのブースでは、学生有志が多種多様な防災・減災や震災伝承の取り組みを

「私だからこそ」を考える
発表していた。「震災を知る世代と知らない世代の間にある私たちがだからこそできる防災を考え、次世代へ伝承したい」と語っていた。年は違えど、同じ志を持つ若者として共感した。私も私だからこそできる防災を考え、取り組みたい。



『ちびまる子ちゃん』『コジコジ』『もものかんづめ』。

本展覧会では、まんが家、エッセイスト、作詞家、脚本家といくつもの顔を持ち、新しいキャラクターやエッセイを次々と世に送り出した稀有のアーティスト、さくらももこのいまなお輝き続けるその全魅力に迫ります。

約三〇〇点のカラー原画や直筆原稿を一堂に展示。描くことと書くことを楽しみつくし多忙を極める一方、季節のうつろいや小さな日常をこよなく愛したさくらももこの世界をぜひお楽しみください。

2026 4.18(土)~6.21(日)

開館時間 9:30から17:00 発券は16:30まで 休館日 月曜日 ただし5月4日(祝)は開館

観覧料	前売/一般	前売/小中高校生
	1,400円(1,600円)	600円(800円)

お得に観覧できる 好評販売中
前売券 ~4/17(金)まで

東北歴史博物館、アンビュー!、
ローソンチケット(Lコード:23014)、
セブンチケット(セブンコード:113-419)、
ファミリーマート(Funity)、藤崎、河北新報販売店

主催 東北歴史博物館、河北新報社、仙台放送
企画 集英社、朝日新聞社 協賛 TOPPANクロレ 協力 三菱ケミカルグループ、S Bird Promotion
後援 多賀城市、多賀城市教育委員会、多賀城市観光協会、多賀城・七ヶ浜商工会、NHK仙台放送局、tbc東北放送、ミヤギテレビ、k h b東北放送、エフエム仙台、朝日新聞仙台総局、毎日新聞仙台支局、読売新聞東北総局、宮城ケーブルテレビ株式会社

〒985-0862宮城県多賀城市高崎1-22-1
TEL 022-368-0106
Eメール: thm-service@pref.miyagi.lg.jp
https://www.thm.pref.miyagi.jp/

さくらももこ展



ある日、小さなまもこが来て、「いっしょにあそぼうよ」といって、うしろの山に、あそび場を作りました。

©さくらももこ ©さくらプロダクション